

検討会での主な意見（抜粋）

次年度の取組の展開（案）を踏まえて、意見交換を行いました。主な意見（抜粋）は以下の通りです。

アンケート調査について

- アンケートを取るならば、このエリアの全体の何割かわからないが、全員にやった方が良く、道路の計画は、アンケートに関わる人に関してはしっかりと説明した方が、意味のあるものが返ってくると思う。
- アンケートを実施して、その上で自治会の方にもヒアリングもした上で、さらに意見をしっかりと汲み取ったうえで、「こんなことをしたらどうですか」という対話の場面もこの後に続けてやっていった方がいいのではないかと思う。
- アンケートを取るときに、集計の結果の報告と、皆様のご意見を伺う場を設ける前提でのアンケートというのがいいだろう。
- 考え方をすり合わせる場とするのが良い。
- 他のエリアでの検討プロセス等も交えて話をし、今後取組を進めて行く上で、自治会のメリット等を検討するのも良い。

低未利用地を使った取組みについて

- ハロウィンイベントは次年度も実施したい。
- まちなかを活用した体験コンテンツがあると良い。
- 来年度の実施は難しいが、進入禁止のエリアをスマホで示すなども区分け（ゾーニング）などは、地域の意向も汲みながら、それらも反映できていくと良いと思う。
- 陣屋跡を活かしたいといった構想があるなら、各イベントに合わせて簡易休憩所にする等、日除けやテントを設けるなど、アウトウクと連動できると良い。
- 空家も活用ができるなら、エリプラや役場でそこを借りて、休憩所やカフェ・物販を実施するなど期間限定で実施することも検討できると良い。
- 収益をどうするかは検討が必要だ。収益を地域に還元できるような仕組みができると良い。

学生との連携

- 域学連携の観点では、まちなかを使つてとなると、香川大学や武庫川女子大学等は可能性があるかもしれない。
- しまのみらいプロジェクトや権風もあるので、何らか連携ができるのも良い。
- ただし、学生にとってメリットがないことがあるので、学生がやってよかったとなるような組み立てをしないとイケない。
- ユカリノSPACEに固定の中高生が来てくれる。この子たちにもヒアリングをして、自分が通う場所としてどうかを聞くのも良い。
- 香川大学等もそうだが、地元の中高生でそうやって、来てくれる人がいるなら、そういう人とやれるのが良い。自然発生的にみんなが集まる場所があると良い。距離的にもユカリノSPACEと陣屋跡は遠くないので連動しやすいと思う。

子ども達が遊べる広場

- 子育て広場を月1で、地域おこし協力隊が続けてきたが、たくさん来てくれる。
- 土日に過ごしやすい場所を求めていることがわかったので、そういった場所を設けていくことも大事だと思う。そういった方々にもまちなかでどんな過ごし方ができるかを聞いた方が良くと思う。
- 走れるようになった子どもはさくら公園（防災公園）が良いと思うが、空地等においては、日影のある場所で車が通らないとなれば、小さな赤ちゃんや幼児連れには非常に良いと思う。
- 小さい子どもが遊べるような、安心できる空間があると良い。

次回

次年度も検討会を継続的に実施

まちの持続化に向けた方向性や取組、体制について引き続き、検討を行っていきます。

2026年3月
No. 04

土庄町役場 建設課
TEL:0879-62-7006
FAX:0879-62-2400

土庄町まちなかエリア プラットフォーム検討会ニュース



第4回では、次年度の取組の展開等について 意見交換・検討しました！

土庄町は現在、少子高齢化、人口減少、経済の停滞、厳しい財政状況などに直面するとともに、旧庁舎をはじめとした公有地の活用や災害対策等を含めた持続可能なまちづくりの実現を求められています。

そのような中で、令和6年3月に策定した「立地適正化計画」内で示した方向性やエリアを中心に、土庄港からエンジェルロードまでの区間の活性化に向けて取り組んでおり、今年度は、国の官民連携まちなか再生推進事業を通じて、官民を問わない様々な主体が将来像を共有し、その実現にむけて取り組む方向性や指針の検討及びプラットフォーム（活動組織）の構築に向けて検討を行っています。

令和8年3月24日に第4回目の土庄町まちなかエリアプラットフォーム検討会議を開催しました。各分野から6名の方に参加いただき、自治会長さんからのご意見等も踏まえ、『次年度の取組の展開』等について意見交換・検討を行いました。

検討会等の予定

第1回 事業概要の説明
事業概要等について (9月10日)

第2回 対象エリアにおける取組やアイデアについて
対象エリアの今後の方向性や取組等を検討 (12月23日)

第3回 取組の具体化、プロジェクトの整理
2回目の結果を踏まえて、具体策や体制を検討 (1月13日)

第4回 対象エリアの目指す方向性や取組等の確認
対象エリアの方向性や取組の案について確認 (3月24日)

プラットフォーム構築や未来ビジョン(案)に反映

～次第～

1. 開会・あいさつ
2. これまでの振り返り
3. 次年度の取組の展開について
4. 検討体制について
5. 閉会

4回目は「次年度の取組の展開」等をテーマに、検討を行いました！

これまでの振り返り（自治会長とのヒアリング・意見交換）

3回目までの検討結果やアイデアを基に、事業対象エリアに含まれる自治会長に対してヒアリング・意見交換を行いました。そこで出された主な意見について、以下に整理しています。これらの内容を検討会参加者に共有しました。



観光やまちづくりに関してのご意見	住民視点でのご意見	迷路のまちに関するご意見	その他
<ul style="list-style-type: none"> 観光客の目線で考えることも必要。観光客向けのアンケートも必要。 小瀬の重ね岩をはじめ、周遊ルートに組み込む要素の整理も必要。 周遊するような地図は絶対に必要。 88箇所めぐりもある。88箇所を歩く道は、ポロポロになっているが、利用した方がよい。 夜の観光として、ホテルや星空を見に行くことを企画したが、全部潰れてしまった。だが、星空案内で来てくれれば必ず泊まりになる。 体験型観光が大切である。素麺のはし分けがしたいとの声がある。 観光客は、住民に迷惑な面もあるが、彼らがこなくなり島内だけの人だと、スーパーやコンビニが成り立たないので、恩恵がないわけではないと思う。 東港の王子前漁港は良い場所なのでフィッシャリーナにできないか。 陣屋跡の活用も検討して良いのでは。 漁師のブイの地蔵もかつては人気があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 商業的視点が多く、住民目線が少ない。業者は資本として見ているが、我々は資産の視点。 移住者が何人いて、何人が残っているのかを知りたい。 もっと島民を大事にすべき。 小豆島は、観光の街ではなく、老人の街だ。老人を対象とするなら、施設が重要であるが、施設で働く人もいない。 瀬戸芸の時にものすごく多くの方が来たが、住民サイドから見るとあまりメリットがなかった。住民に対するケアが不足しているのではないかと。町にお金がおちて間接的にでも住民にメリットがあるのなら協力するが、ゴミだけ落とされるのであれば、今のままでよいというのが基本的な考え方。 	<ul style="list-style-type: none"> 迷路のまちははっきりとした由来を知りたい。 入ってほしくない場所や歩いてほしくないところに観光客が来る。直島のように暖簾をかけるなどの工夫や対策が必要。 瀬戸芸で、家から出られなかったり、車がだせなかったりした。 迷路の町に関して、例えばQRコードで立ち入り禁止区域を示す等の対策ができるのではないかと。 迷路のまちに面的に業者が沢山入ってきたらよいが、ほとんど入ってこない。 事業者が何かをやるのであれば、迷路のまちを全部買い取ってくれと言いたい。(面的に整備してほしい) 迷路のまちの中央通りを一方通行にしてはどうか。西光寺から一方通行で本町信号側。 一過性の観光ではなく体験型の観光が迷路のまちの中でできないか。それと、夜の観光がないし、まちが暗い。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生をはじめ、若い世代の意向を反映すべき。 まちの景観の維持も大事にもらいたい。 業者がやるのであれば、資金を出すべきである。商店街が潤うのなら間接的なメリットもあろうが、商店街にはだれもいない。

次年度の取組の展開（案）について

これまでの検討や頂いた意向等を踏まえて、次年度に実施していく取組や展開について意見交換を行いました。以下では、取組の案・アイデア（イメージ）を示しています。ここで示しているものは、あくまでも案やアイデアであり、確定したものではありません。これらをたたきとしながら、取組について検討を行いました。

検討会や対話を行う場の継続	空間調査 / 空地・空家等調査 / 道路利用実態調査 (道路整備等も見越して)	建築学生等を交えたコンペの実施の検討 (瀬戸芸との連動も見据える)	観光ガイド、防災マップ等のマップの作成とルート検討・整備
<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、多様な主体が対話できる場を設け、まちの将来について検討を行う。 より若い世代も交えて対話を行う。等 	<ul style="list-style-type: none"> ハード整備の状況も加味しながら、歩行空間に関する調査(居心地良さ)を行う。 対象エリアの住民を対象にアンケート調査や報告会を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 空地の有効活用等を見越して、建築学生等を対象としたコンペを実施し、実施施工までの取組を検討(トイレ付休憩所、ストリートファニチャー、エリアのサイン計画等を想定) 	<ul style="list-style-type: none"> 防災・減災を踏まえた避難ルート・マップの整備 観光周遊ルートの整理。既存コンテンツとの連動(歩いてほしいエリアと入ってほしくないエリアのさび分け) 
道路空間や空地、空家等を活用した社会実験 (休憩機能の整備、海の活用等)	既存イベントと連携した取組の検討	ハード整備との連携(旧庁舎、港周辺、道路整備等)	未来ビジョン(整備イメージ)の整理
<ul style="list-style-type: none"> 迷路のまちのエリアに休憩機能を設ける 空家等を活用したレンタルスペースの整備検討 等 	<ul style="list-style-type: none"> 現在実施がされている既存イベント等と同時に休憩所を設けるなどの企画・検討を図る、等 	<ul style="list-style-type: none"> 旧庁舎周辺や港周辺の整備や県道・町道の整備も含めたハードとソフト両輪での連携の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 今後の対象エリアの未来の姿、取組などをまとめたビジョンを整理。 